

有害プランクトン情報

(令和元年度 - No. 5)

千葉県水産総合研究センター
東京湾漁業研究所・生産技術研究室
千葉県農林水産技術会議

水産総合研究センターは東京湾でプランクトン調査を行っています。プランクトンの種類や密度によっては、魚類や二枚貝などに影響を与えるので、毎月1回有害プランクトンの出現状況をお知らせします。

○ 調査日	沖合	8月 第1回	内湾 (8地点)	8/5	内房 (7地点)	8/6
		8月 第2回	内湾 (8地点)	8/19	内房 (7地点)	8/20
	貝類漁場内	九十九里 8/8, 18, 21, 26				
		千葉北部 8/21 木更津北部 8/28 木更津南部 8/20 富津 8/27				

【有害プランクトンの出現状況】

- ヘテロシグマ属の最高細胞密度は8/19に羽田沖及び千葉灯標で0.20 細胞/mLでした。シャットネラ属、シュードシャットネラ属、カレニア属は確認されませんでした。
- 赤潮（透明度 1.5 m 以下、pH8.5 以上、酸素飽和度 150%以上）は第1回に内湾で確認されました。
※ シャットネラ属は1 細胞/mL、ヘテロシグマ属は1000 細胞/mL、カレニア属は100 細胞/mL を超えた場合に注意報を発出します。

【貝毒プランクトンの出現状況】

- 麻痺性貝毒原因プランクトンは確認されませんでした。
- 下痢性貝毒原因プランクトンの最高細胞密度は、ディノフィシス フォルティが8/8に一部の貝類漁場で7.10 細胞/mL、ディノフィシス アキュミナータが同日に同所で1.50 細胞/mLでした。この時の貝類検体から下痢性貝毒は検出されませんでした。他種はディノフィシス ロツンダータが8/6に富津南で0.10 細胞/mL等でした。

(貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載)

○ 各海域で見られたプランクトンの優占種

8/5	内湾	珪藻	タラシオシラ属 (図1)、シュードニッチア属、スケルトネマ属、キートセロス属
8/6	内房	珪藻	キートセロス属、シュードニッチア属
8/19	内湾	珪藻	キートセロス属 (図2)、タラシオシラ属、タラシオネマ属*、スケルトネマ属
8/20	内房	珪藻	タラシオネマ属*、スケルトネマ属

*小型細胞はネオデルフィネイス属の可能性あり

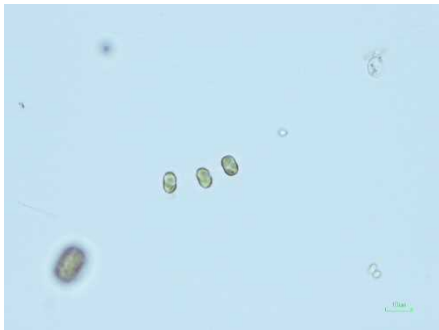
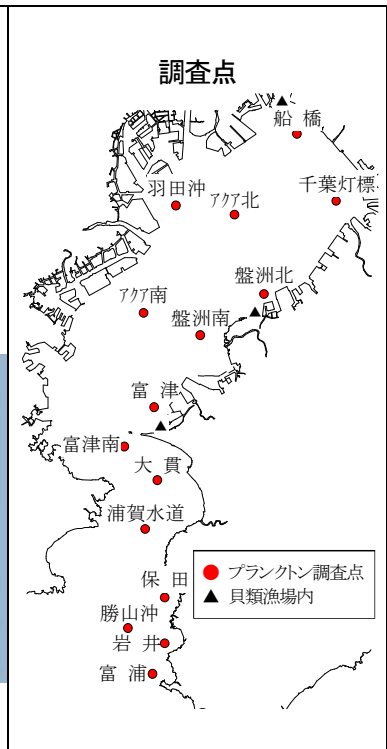


図1 タラシオシラ属
(8/5 羽田沖)



図2 キートセロス属
(8/19 千葉灯標)



連絡先 : 千葉県水産総合研究センター 東京湾漁業研究所
〒293-0042 富津市小久保 3091 TEL 0439-65-3071 E-mail futtsu-sokuho@pref.chiba.lg.jp